

令和6年度 第1回柏原の大ケヤキ（木の根橋）保存活用計画策定委員会会議録

日時：令和6年10月9日（水）14:00～15:55

場所 柏原自治会館 23号室・柏原の大ケヤキ

出席委員：大木副委員長、浅原委員、梅垣委員、菊本委員、坂本委員、門内委員

欠席委員：武田委員長

オブザーバー：兵庫県教育委員会文化財課 大本氏、樹木医 安田氏

事務局：小畠課長、徳原主任学芸員、玉出学芸員、塚田主事

1. 開会 小畠課長

2. あいさつ 小畠課長

3. 委嘱

（1）委嘱書の交付 机上配布

（2）自己紹介

（3）委員長・副委員長の選出

委員長 武田義明氏

副委員長 大木辰史氏

4. 協議事項

（1）保存活用計画の概要について 事務局から説明

（2）柏原の大ケヤキ（木の根橋）の概要について 事務局から説明

大木副委員長	柏原の大ケヤキは、みんなに親しまれているということと同時に、町中にあるがゆえに、町の発展に伴って道の拡幅や自動車の台数が増えるなど様々なストレスを受けてきた。そのような中で、よくぞここまで残ってくれたと思う。 県下には他にも大きなケヤキがあるが、神社の境内やあまりストレスを受けないところにあるケヤキが多い。 事務局の方からの説明に質問等あれば。
委員	県の天然記念物というのは、どういう位置付けなのか。
事務局	地域の中にある価値があるもの、今回であれば天然記念物に指定して後世に残していく。八幡神社の本殿であれば国の重要文化財、三重塔は県指定の建造物有形文化財の指定。 指定されると国や県からの補助があるが、それをきちんと守る責務が生じる。そのため、すぐに解除するということとはできない。

県文化財課	文化財は、国指定、県指定とピラミッド構造のようになっており、国指定は、いわゆる国を代表するような天然記念物。 兵庫県や日本で一番大きいとか、あとは遺伝子的に極めて特異だとか、学術的な評価が高いだとか、特徴的な部分で評価がある。その中で、県指定の天然記念物については兵庫県下を代表する樹木として指定している。 大ケヤキの本質的価値というのは、この木がどういう点で県下を代表する樹木かということで、木の大きさだけではなく、地域で呼ばれるように「木の根橋」という形状が樹木を特徴づけている。 皆さんには、普段近くで見ていただいていることもあり、それぞれ活用の方や日々見ていて気づいたことがあれば、ご意見を寄せていただきたい。
大木副委員長	資料の写真を見ても確かに昭和 62 年の時の写真から平成 25 年、令和 6 年度と木が徐々に弱っているような感じもするが、もちろんこれは様々な周辺の開発等も理由にある。
県文化財課	私も見ていてここが町の顔みたいところで、人の動きがあるからということもあるが、周辺に建っている建物も、歴史的な建造物がすぐ横に建っていたりだとか、近くに高校があったりだとか柏原八幡神社さんがあったりだとか、かなり周辺に文化財や人が集まるスポットがある。 だからその辺りで人がどれぐらい通ってるかとか、そういうところを押さえておいた方が今後の対応、安全対策とかを考えていく上では、触れておいたほうがいいのではないかな。 地域の方は、樹勢が弱まってるとという印象はあるかな。
委員	たまに見たら、ここが変化しているという意見は出るだろうが、毎日見ていると、枯れ枝が落ちてるとか、今年は落ち葉が少ないなとか、その程度しかわからない。
委員	こういう話があるまでは、丹波市役所旧柏原支所（現かいばら一番館）の方に傾いているということもあまり意識したことがなかった。丹波市役所旧柏原支所（現かいばら一番館）も住民の拠り所になっている。丹波市役所旧柏原支所（現かいばら一番館）の建物も一緒に何とか存続できないか。なんとかしてほしい。
委員	小学生の時、大ケヤキの横を通るときは木に登って遊んだり、木の根橋の上を歩いた。昔は何の規制もなく、横の川で遊んだりもした。地元でずっと見てると、ケヤキを見て季節を感じている。丹波でも各町に珍しい木があるが、やっぱり木を語るときに柏原は大ケヤキを外せない。

（３）現状と課題について （事務局説明）

委員	傷み具合などの話を聞くと、生き物なのでどうやって寿命を引き伸ばしてやればいいのか、なかなか難しい。何とかこのまま生かしてやりたい。
大木副委員長	樹木医の安田さんに見るポイントがあれば教えてほしい。
樹木医	資料として配布した茨城県指定天然記念物の地蔵ケヤキの写真を見る

	と、幹の一番外側の薄いところしか皮が残っていない。幹の中は空洞で一番薄いところは17センチくらいしかない。 柏原の大ケヤキは、今までキノコに対する治療はしていたが、唯一していないのが木の高さを変える、枝をつめることである。木の高さはほとんど変わっていない。高ければ高いほど重力は強く働く。また、現在、幹は空っぽなのに、枝は中身が詰まっている状態である。 住民の方から木が傾いているという指摘で支柱をしたが、今は木が支柱に寄りかかっている状態。 できれば、木の高さを約10メートル前後に抑えたい。 しかし、来られる方がケヤキを立派だというので、なかなか切り出せない。 ケヤキというのは、水が好きなので、隣にある川から水分を取っている。古市場側の市道の下は水が溜まっていて、この辺りは水が豊富。だからケヤキも生きることができた。水が沢山あるから、根をたくさん広げて水分を吸収する必要もなかった。 しかし下水道ができた頃から、樹勢が弱まったと言われはじめた。それまでは川の水に人間の流したものが薄まっていてそれを養分としていた。 ケヤキにとっては、今はちょっと水が綺麗になりすぎている。そんなところをご覧いただけたら嬉しい。
--	---

5. 現地確認

枝をつめる位置、幹の空洞の高さ(支柱の支えぐらいまで)、道路下の空洞の入口等を現地にて確認